

【水の大切さ】

福岡県 久留米信愛中学校 三年

増田 喜陽乃

「水を大切に使う」という言葉を何度も聞いたことがある。しかし、水を大切に使うとは、具体的にどうすれば良いのだろうかと考えたときに、思い出したことがある。

小学生のとき、祖母の家でカレーライスを食べた。そして食べ終わったあと、そのまま食器を洗おうとした。すると、

「そのままにしたら水が汚れるし、洗う時間も必要な水の量も増えるよ」と言われ、布きれを渡された。たしかに、食器を先に拭いておけば洗う際に良い点がたくさんあるなと思った。それから水への関心が高まり、夏休みの宿題の自由研究で水のろ過をした。そのろ過は簡単なもので、ペットボトルに石や砂、木炭などを入れてろ過装置を作り、その中に泥水のような汚い水を入れるというものだった。入れた泥水がろ過を経て一滴ずつきれいになっていく。それを何度もくり返した。私は、水がきれいになっていく様子を見て、水がきれいになるのには、時間がかかるのだなと思った。

水をきれいに使うためには、水が汚れる原因を知らなければいけない。調べると、産業排水などの他に生活排水があった。生活排水とは、台所など、人間の日常生活の営みから出される水のことだ。私たちが直接的に関係している、変えられるのは生活用水だと思う。私たちが汚さないために考えたことは、洗濯や食器洗いときに環境に優しい洗剤を使うことや、油や食べ残しをそのまま水に流さず拭き取ってから流すことなどだ。

そして、節水をする。これも水を大切に使うことだろう。節水をするということは、二酸化炭素の排出を減らすことに繋がるそうだ。水を使うとき、家庭へ水を届けるポンプや、使ったあと水をきれいにするための下水処理場では電力が使われる。だから節水することによって使う電力まで減らし、二酸化炭素の排出を減らすことができるのだ。節水は、歯磨きや

手を洗う間に水を止めておいたり、風呂の残り湯を活用したりなど、様々な方法でできると思う。

私が考えた水を大切に使うということは、具体的に汚さないことと、節水をする。飲料水や料理、トイレや洗濯など、衛生さを保つには絶対に清潔な水が必要だ。そんな中で、水を長い時間歩いてくみに行き、得られるのは泥水で多くの人々が命を落とすというように、日本のように蛇口をひねればきれいな水が出てくることのありがたさを感じたら水を大切に使うことができると思う。水は有限だ。人間が直接使うことのできる水はほんの一部だろうと私は思う。

私は、水を汚さないように常に意識し、節水に努めることで水を大切に使うと考えている。水の大切さをしっかりと学び、無駄な使い方をせず、日々水を使える恵まれた国であることに感謝したい。そしてこれからも、生命の源である水の恩恵を受けながら過ごしていきたいと思った。